

# 鹿大マガジン

KADAI JOURNAL

鹿大広報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/>



特集

鹿児島大学9学部紹介  
～我ら 鹿大ナインズ～



鹿大マガジン movie  
One Minute

NO. 213  
2020 SPRING

# 鹿児島大学9学部紹介 ～我ら鹿大ナインズ～

1949年(昭和24年)の学制改革により新制鹿児島大学が誕生し、現在9学部を有する南九州最大の総合大学へ成長してきた。今回は、地域とともに歩み、かつ世界へ羽ばたく大学として更なる成長を目指す中で、その中核となる9学部について、それぞれの特色を交え、学部長の声とともに一挙に紹介する。

## 「法文学部」

時と場所を超え、  
知を探究する学部

法文学部は2017(平成29)年4月、組織と教育の大幅な見直しを行いました。組織の面では、これまでの3学科(法政策学科、経済情報学科、人文学科)を、2学科(法経社会学科、人文学科)5コース(法経学コース、地域社会コース、経済学コース、多元地域文化コース、心理学コース)に再編しました。ポイントは、法政策学科、経済情報学科の統合により社会科学全体を系統的に学ぶことのできる法経社会学科を設置し、地域社会コース、心理学コースを新設したことです。

法学コースでは、専門的知識を用いて、地域



法文学部長  
高津 孝

社会や国際社会の諸問題を発見し、解決策を発信できる人材を育成します。地域社会コースでは、地域社会の理解を深め、地域社会の課題を解決できる人材を育成します。経済コースでは、地域の企業や自治体において中核的な立場で活躍できる人材を育成します。多元地域文化コースでは、幅広い知識と視点から地域社会と国際社会の課題を解決できる、実践力のある人材を育成します。心理学コースでは、他者に寄り添い地域の「心の健康」を支える人材と、心理学を生かしビジネス分野で活躍できる人材を育成します。

教育の見直しという点では、3つの学び(「広く学ぶ」、「深く学ぶ」、



「学びを活かす」を段階的に習得できるようカリキュラム改革を行いました。「広く学ぶ」は、鹿児島大学あるいは法文学部としての基礎教育です。「深く学ぶ」は、専門領域の基本的な内容の科目です。「学びを活かす」は、実習などによる現場感覚の涵養を通して、習得した専門的知識を具体的な実践に結びつけるものです。この「学びを活かす」では、「法文アドバンスト科目」を設定。能動的（アクティブ）に学修（ラーニング）に参加し、現場感覚を有した柔軟な発想力や実践力を磨くことを目標とした「観光学」「島嶼ツーリズム論」「まちづくり論」「マスコミ論」「海外異文化体験実習」などの科目で構成されています。こうした教育の成果はすでに現れており、本学部の学生が「かごしま政策アイデアコンテスト」に連続して多数入賞し、鹿児島市役所において防災対策に関する政策提言を行うなど、多方面で活躍しています。

## 「教育学部」

高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた教育者の育成

教育とは何か、という問いに答えようとするのは難しいことかもしれません。しかしながら、私たちは

みんな学校での教育を受けて成長していきます。ですから、自分が受けてきた教育、一緒にいる人たちが受けてきた教育は実

とも身近なものなのです。ふだんは意識しないことが多いかもしれませんが、少なからず影響を受けていると言っているでしょう。

このような、日本人に限らず世界の人々が受けている教育のことを考えなおす場所が教育学部です。幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校など、それぞれの年代に、様々な地域で教育は行われています。一体、これまでどのような教育が行われてきたのか、これからの社会で生きていくためにはどのような教育を行っていくのが望ましいのか、など、教育学部では、教員免許を取得するプロセスの中で、こういった教育の歴史や教育の課題について、その原理やカリキュラム、方法を通して学んでいきます。また教育学部では、自分たちが学



教育学部長  
上谷 順三郎



んできた「学校」に実際に行って、学んできたことを確かめ、今の教育の実際を見ることができま。鹿児島大学教育学部には附属学校園があり、幼稚園、小学校、中学校は同じ敷地内にあります。教育実習だけでなく、ふだんから「学校園」を感じながら学ぶことができる、恵まれた環境にあります。

学校教育について、さらに深く学んでいく機会も設けています。鹿児島県には多くの小規模校があり、複数学年が一緒に学習する複式学級もたくさんあります。そうした鹿児島県の教育の特徴に対応した指導については、学部の授業だけでなく、奄美大島での学校環境観察実習や日置市学習指導アシスタント派遣事業などを用意しています。

鹿児島大学教育学部では、学部教育の充実のために、附属学校園との連携を強化していくだけでなく、教職大学院への接続も視野に入れながら、今後もさらなる改善に取り組んでいきたいと思ひます。

## 「理学部」

研究する力を伸ばす  
学びと理解の質保証

理学は、数学や自然現象の中に潜む真理を探究する学問です。不思議



理学部長  
岡村 浩昭

だ、おもしろいなということを見つ、不思議さやおもしろさの根本を追究し、多くの人に知ってもらふこと、またその方法を学び、研究する力を身に付けた学生を育てることが、理学部の使命です。

鹿児島大学理学部は、自然に恵まれた鹿児島島の地の利を生かした火山学や多様性生物学、天文学の研究をはじめ、数事情報科学、物理学、化学、生物学、地球科学の分野において世界的水準の研究を続けています。これまで専門分野ごとの4つの学科で教育研究を行ってきましたが、2020（令和2）年4月から新たに理学科として統合し、学生の「研究する力を伸ばす」取り組みを積極的に進めます。

理学の研究対象は、分野を超えて広がっています。理学部では、学生の興味に応じ、専門分野に加えて興味の持った分野の科目が履修できます。学習意欲をもって学びたいことを学ぶ「学びの質保証」は、多様な科学的問題に対応で



きる力を身に付けるための理学部の教育の特徴の一つです。

もう一つの特徴は、「理解の質保証」です。理学部では、可能な限り専門科目の授業直後にオフィスアワー（質問時間）を設定しています。わからないことはすぐに質問できる環境を整え、授業外学習を徹底しています。

「研究する力を伸ばす」ための総仕上げは4年次の卒業研究・演習ですが、より高度な研究のためには大学院でのさらなる研鑽が必要です。理学部では、大学院への進学を希望する学生に対して「理数教育プロジェクトコース」を設定しています。コースに参加する学生は、1年次から研究室に所属して本格的な研究環境に触れることができ、優れた成績の学生は、4年次に大学院の科目を先取り履修することもできます。変化し続ける社会の中で、理学部で学んだ専門科目が直接役立つ機会も多くないかもしれません。しかし、理学部で身に付けた「研究する力」は、どんな社会でもあなたを助ける力になるでしょう。

## 「医学部」

地域と連携した  
人間性豊かな医療人の育成

医学部には医学科と保健学科があ

り、保健学科は看護学、理学療法学、作業療法学の3専攻から構成され、総合的に専門的医療人を育成しています。

鹿児島における西洋医学の歴史は、1868年に薩摩藩が鳥羽伏見の戦いの負傷者の治療を英国人医師ウィリアム・ウィリスに依頼したことに端を発します。同年、藩立学校と病院が設立され、東京医学兼病院（現東京大学医学部）の初代校長であったウィリアム・ウィリスを鹿児島に招聘したのです。彼は英国式の臨床実証医学を重んじ、患者を前にした臨床教育を行いました。日本初の医学博士であり、日本の近代看護教育の祖と言われる高木兼寛もウィリスの門下生の一人です。高木は、脚氣の研究で世界的に知られ、東京慈恵会医科大学を創設した人物です。この縁で、

本学部と東京慈恵会医科大学は包括的連携協定を締結し、教育研究面で連携協力していくことを目指しています。



医学部長  
河野 嘉文

従来、医学部は教育・研究・診療の3つの重要な役割を担っており、現在は、多様化する社会的需要に対応するため、教育は医学部が、研究は医歯学総合研究科と保健学研究科が、そして診療は鹿児島大学病院が中心に担当し、これらの部局が緊密に連携し、社会で求められる医療人育成に邁進しています。

現在、わが国は世界に類を見ない少子高齢化社会となり、急速な人口減少に直面しており、高齢者を対象とした介護・医療や地域の防災対策など、社会全体で取り組むべき課題が山積しています。国内全体での取り組みとともに、地域に根ざした解決策の立案と実践が求められています。その中心には医学的専門知識と技能を有し、地域で活躍できる総合的医療人が必要です。

このような社会情勢を背景に、鹿児島大学医学部はその理念として「人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ、医学・医療を担う人を育成する」とことを掲げています。全人的医療を実践しうる医療人の育成ならびに独創的研究を行える研究者及び優れた指導者の育成を教育目標とし、南北600kmにおよぶ鹿児島県をキャンパスとして医療人教育を展開しています。

## 「歯学部」

目指せ！進取の気風に溢れ  
地域と世界で輝く歯科医師

歯学部は1977年10月に設置され、以来、離島・へき地医療を支えると同時に国際社会で活躍しうる医療人の育成に努めてきました。その結果、本学ならびに他大学の教授や学部長、また鹿児島県歯科医師会会長をはじめ地域医療に尽力する歯科医師を多数輩出するなど、南九州唯一の歯学部として地域とともに発展してまいりました。また、大規模災害対策の一環として、歯科医師会等と連携し、身元確認研修会の開催や熊本地震におけるJMAT支援等も行っています。

本学部は、困難な課題に果敢に挑戦する鹿児島大学の「進取の精神」を基盤として、「歯科医療人である前に良識豊かな人間であれ」という基本理念の下、離島巡回歯科診療同行実習や「学生ゼミ」と呼ばれるユニークな科目など、特色ある教育を実践。卒前教育では全国に先駆けてアウトカム基盤型教育を本格的に

歯学部 部長 正一  
歯宮 脇



導入しています。近年は、グローバル社会で活躍する国際医療人を育成するために学術交流協定校を増やし、全ての学生が参加できる海外歯科研修プログラムを提供し、国際的な研究発表会において輝かしい成果をあげています。



研究面においては、現在「口腔と全身との関連」や「口腔・顎顔面領域の再生医療」など、本質的かつ先端的なテーマに積極的に取り組み、国際的に高い評価を受けています。さらに、診療面においても、口唇口蓋裂などの先天性疾患に対応する包括的医療、多職種連携による障がい児・者の口腔管理、口腔癌の早期発見・治療と機能的再建、口腔インプラント、歯周再生治療、歯科矯正用アンカースクリューなど、高度な歯科医療を提供する国内有数の機関として歯科医療の発展に貢献しています。さらに、ミニマルインターベンション（侵襲を最小限に抑えること）による保存・補綴治療、超高齢社会に対応するための多職種連携に向けた活動や周術期口腔機能管理などの医科歯科連携も強化しています。

このように、本学歯学部では、先進的かつユニークな教育・研究・診

療を実践し、地域と世界で活躍する進取の気風に溢れた歯科医師の育成を目指しています。



## 「工学部」

さあ今だ！  
つくる技術を学びとれ

工学部は、技術立国の日本において、エンジニア育成という重要な役割を担っています。工学部はこれまで、工学教育の国際水準を保証するJABEE認定を受けたまたはそれに準じたプログラムで教育を実践しており、GPA制、キヤップ制、カリキュラムマップやナンバリングによる学修の体系化の明示を、全学に先駆けて導入してきました。また、環境・エネルギー、医療工学、防災・減災などの研究を推進しつつ、地域が抱える諸課題や分野融合に基づくイノベーションテーマに関する研究を行っています。卒業生の5割強が大学院博士前期課程へ進学し、卒業

工学部 部長 英二  
木下



生及び大学院修了生に対する社会のニーズは極めて高い状況となっております。就職率はほぼ100%で不安定雇用率は極めて低く、就職状況は非常に安定しています。

工学部では、第4次産業革命やSociety 5.0など時代の変化に対応しつつ地域および国際社会で活躍するイノベーション人材の育成を目指し、2020(令和2)年4月1日、現在の7学科構成を新たに先進工学科(6プログラム)と建築学科(1プログラム)の2学科構成に再編する改組を行います。本改組では、イノベーション人材育成のための基礎力強化、工学分野の全体把握による視野の拡大、数理・データサイエンス教育の強化などを行います。先進工学科では、分野間の融合教育推進によるイノベーション創出のための基礎学力の養成を行い、入学後にプログラムを選択できる制度、いわゆる大括り入試を導入します。建築学科では、人文・社会科学、芸術と理工系の学知を基礎とした総合力の養成を行い、自己推薦型入試などの多様な入試を導入します。現在の7学科は、工学のほぼ全ての分野を網羅し、出口である就職と対応した構成となっているため、基本的な枠組みはそのまま7プログラムへ移行されますが、先進工学科では、社会のニーズ(入口と出口のニ



農学部長  
橋本 文雄

ズ)により、各プログラムの定員を変更できる仕組みを採っています。工学部は、今回の改組をはじめとする継続的な改革を行い、他学部との連携を強化し、地域および国際社会に貢献できる学部を目指します。

## 「農学部」

食と農、森と水、  
基礎から最先端バイオまで

農学部は1908年3月に設置された鹿児島高等農林学校を前身としており、2020年で112年を迎えます。

2016年度に3学科8コースへ改組を行い、南九州で活躍する農・畜産分野あるいは地域環境の管理・防災に関わる技術者の養成、食の安全性、食品機能と健康、焼酎・発酵学の教育研究を充実させました。

農業生産科学



科では、フィールドでの実践教育と基礎知識、技術、理論の習得による人材養成を目指しており、農作物生産業に係る応用植物学コース、家畜生産業に係る畜産科学コース、6次産業化による活力ある農山村振興産業に係る食料農業経済学コースを設置しています。

食料生命科学科では、食分野の諸産業に係る人材の養成を目指し、食品機能に関する教育を強化した食品機能科学コース、食の安全に関する教育を充実させた食環境制御科学コース、地域発酵産業に関する教育を強化した焼酎発酵・微生物学コースを設置しています。

農林環境科学科では、環境・国土の保全と森林や水など地域資源の利用、農林業のスマート化に貢献できる人材養成を目指し、森林を対象とした森林科学コース、農山村や農業現場を対象とした地域環境システム学コースを設置しています。

2015年度に水産学部と共に設置した国際食料資源学特別コースでは、食料資源の持続的生産とその合理的利用の専門知識を修得し、国際社会に貢献できる人材を養成します。

また、実践的なフィールド教育を重視している農学部には、教育研究に資する附属施設もあります。学内外(唐湊、指宿、入来)に農場、果樹園、試験場、牧場があり、教育共

同利用拠点に認定されている高隈演習林は、他大学の利用者が国内で最も多い演習林となっています。

本学部において長年続けているタイ、ミャンマー、雲南農業大学、ロツテンブルク林業大学等での海外研修や学生交流が動機付けとなり、海外への長期留学につながっています。また、2015年度には地域連携協議会(鹿児島県、市町村、関係団体等)を設置。地域課題をくみ上げ、本学部教員が地域と連携した研究課題に取り組んで成果を上げています。

## 「水産学部」

就職に強く  
学生に親切な水産学部

水産学部は1910(明治43)年に開校した伝統ある学部です。国立大学の水産学部は現在、国内に3つしかありません。中でも本学部は、温帯から亜熱帯にかけて南北600kmの広がりを持つ鹿児島県にキャンパスがあり、養殖が盛んな錦江湾や、黒潮が流れ東南アジアや太平洋島嶼国につながる広大な太平洋など、多様で魅力的なフィールドに恵まれています。

本学部では、「就職に強く学生に親切な水産学部」をモットーに、学



水産学部長  
佐久間 美明

生満足度を高めるカリキュラム形成を図っています。入学後の1年間は全員が水産学科学士として幅広く学び、2年生以降で水圏科学、水産資源科学、食品生命科学、水産経済学、水圏環境保全学の5分野に分かれて専門的な教育を行います。また、キャリア形成に役立つ語学や資格取得を目指す教育プログラムも充実しています。毎年、就職希望者のうち半数程度の学生が食品関連企業に、8割近くが水産関連産業に就職していきます。

本学部は、鹿児島大学の中で最も鹿児島県外出身学生が多く、多様性豊かな学部です。研究テーマも多様であり、海洋環境や魚類生態、水産技術や養殖技術、食品加工や食品流通、水産政策や水産経営等の幅広い分野で成果を上げています。また、水産学部は海外からの留学生や研修生が多く、修士課程では海外大学と共同プログラムを開設しています。海外ボランティアや留学を行う日本人学生も多く、世界に開かれた教育も大きな特徴となっています。また、農学部と連携した国際食料資源

学特別コースを設け、国際的な食料問題に取り組む学生も育てています。

人類の多くが水産物を生存に不可欠な食料として



しているだけではなく、30億人以上が海の環境や生物多様性を頼りに生計を立てています。国連が2016年1月に定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」の14番目には、「海の豊かさを守ろう」が入っています。本学部はこの目標に直接的に貢献できる希少な学部です。水産業に関し、環境、生物、食料、健康、雇用の各側面から実践的かつグローバルな教育や研究を進めることが本学部のミッションなのです。

## 「共同獣医学部」

地域貢献とグローバル化を  
同時進行し獣医師を育成

鹿児島大学は全国に「10」しかない獣医系国立大学の最南端に位置しながら、最も優れた獣医学を教育する環境にあります。

鹿児島市には約60万の人口があり多くの伴侶動物（イヌやネコ等）が、また日本有数の畜産地帯が広

がる市周辺には多くの産業動物（ウシ、ブタ、ニワトリ等）が飼育されています。馬も軽種（競走）馬の主な生産拠点です。さらに鹿児島県は南北600kmに温帯から亜熱帯気候を有し、多くの島嶼を持つため、そこには希少な野生動物が生息し、その保護及び保全に獣医師の協力が求められています。屋久島は1993年に世界自然遺産に登録され、奄美大島及び徳之島は2013年に沖縄島北部及び西表島と共に世界自然遺産登録候補地として選定され、今年はその登録決定が期待されているところで

す。冬にはシベリアより出水平野に飛来するツルの保全とトリインフルエンザの感染防止に大学として協力しています。その他、食肉の安全確保や動物由来感染症への感染防御にも大学は大きな役割を担っています。

グローバル化に向けては、2017年6月にアメリカのAAALACインターナショナルの認証を国立大学の中で3番目

に取得し、実験動物が動物福祉に配慮された適切な管理下で飼育されていることを示しました。2019年12月には山口大学と共にEAEEV（欧州獣医学教育機関協会）認証を取得し、ヨーロッパの獣医学教育水準と同等であるとお墨付きを得ました。山口大学とは遠隔講義システムを使って約4分の3の授業を両大学で同時に行っており、2019年7月には柴山文科大臣（当時）がこのシステムを使った講義を視察され、高い評価を得ました。



ハード面では2015年に総合動物実験施設を、2016年に大隅産業動物診療センターを、2017年に附属動物病院・小動物診療センターを新設しました。これらを通して参加型臨床実習を充実させています。

私達は鹿児島島の地の利を最大限に活用し、鹿児島大学で教育を受けた卒業生が、獣医師として地域及び国際的に活躍できるように、時代の先端を走り続けます。



共同獣医学部長  
宮本 篤



「進化・文化と心理学」

(共通教育科目)

法文学部

人文学科

社会心理学

大藺博記

准教授



## 科学的考察の 習慣を身につけ 自分の視点を超えよう

大園博記先生による講座「進化・文化と心理学」のカリキコラムには、「人類進化の道筋」「人種の起源と差別」「恋愛・結婚と進化」「子育て・家族と進化」「文明の崩壊」「戦争と平和」など、身近な話題から人類史をたどる壮大な話まで、多岐にわたるラインナップが並ぶ。第9回の授業「表情の進化と文化差」笑顔は信頼されるのか？」を聴講させていただいた。

### 笑顔は信頼されるのか？

「これから1枚ずつ写真を出します。どの人にくらべてよいか直感的に考えてください」。金銭の預託額によって相手の信頼感を測定する「信頼ゲーム」の手法を応用し、大園先生はスクリーンに男女数名の顔写真を映し出す。「この人にはお金を預けてもいい、この人には嫌だとか、なんとなく直感的に考えているようですが、相手の表情が何かしら関係して

いる可能性もある。一般に笑顔の人は好感を持たれるイメージがあるけど、本当にそうでしょうか。そして、それはなぜなのか、という話です」

「笑顔」にアプローチするため、表情、そして表情の元にある感情について、心理学や人類学などの視点を交えた解説が進められる。論理的判断の妨げと見なされがちな「感情」が、私たちが適応的な行動へと導いてくれたことを知る。また表情には、普遍性と文化による多様性という二面があることも知り、異文化理解が不可欠であることも腑に落ちる。

そして講義後半では「笑顔は信頼されるか？」のメインテーマ。海外の科学者らによる各種研究が紹介され、男女ともに真顔より笑顔の方が信頼され、さらに「偽の笑顔（作り笑い）」より、「真の笑顔」の方がより信頼を得るという研究成果が示された。「やっぱりそうなんだ。だって人間だもの。」で終わらせてはいけない。問題は、なぜそのようなことか？ ということです。大園先生がナビゲートする知の旅は続く。

### 自らの視点を超えよう

「講義の表のテーマは、進化や文化の観点から人間の社会や心を探る、というのですが、進化や文化を考えると

うことは39億年の生命進化の中の自分、何千年も続く文化の中で生きる自分を見るということ。今いるところから世界を俯瞰してみよう、自分の視点を超えようというのが裏のテーマになっています」。子殺しや差別、浮気など、あえて感情に訴えるテーマを取りあげ、その客観的分析について取り上げるのも、科学的思考を深めてほしいという意図のもと。「感情だけで自己中心的に捉えているだけでは見えないことがある、ということや善悪だけで物事を判断しない常識や当たり前を疑う必要がある、ということに気づいてもらいたいです。また、事実（そうである）と価値判断（そうすべき）は別物だということも、強調しています」。受講生と大園先生が共有するプログラムには、感情を揺さぶられ戸惑いを率直に吐露する学生の感想が見られる一方、客観的な視点を得て有意義な生きる姿勢を学べたという意見もあり、講義の内容が学生への刺激となっていることが窺える。

### 身のまわりは

### 不思議にあふれている

講義の終盤では、海外の科学者の研究成果を踏まえ、大園先生自身が大学院時代に取り組んだ「笑顔」の研究について

話が及んだ。「表情の表出が抑制的な日本人でも笑顔は信頼されるのか」というテーマで取り組んだ研究は、半ば成功、半ば失敗に終わったという。「アメリカ人に比べて日本人の方が真の笑顔に対して敏感であるということは結論づけられましたが、笑顔が信頼されるか、ということは状況によって大きな違いが生まれました。個人差も大きいし、再現性も低いし、微妙な結果。教科書ではきれいな結果が並びがちですが、実際の研究というものは「筋縄ではいきません。でも、仮説を立てて実験して、考察を深めていけるのが科学的な研究のいいところです」。生の研究者の率直な声を学生に届ける。「今回気づいてほしい事は、なんとなく、に目を向けようということ。なんとなく、を深掘りしてみると、考えることはたくさん出てくる。僕たちの日常はこんな不思議に満ち満ちているということに、少しでも気づいてもらえたらと思います」。そう話を締めくくった。



大園 博記 (おおその・ひろき) 准教授

鹿児島大学 法文学部 人文学科 社会心理学  
[学位] 博士(教育学), 京都大学, 2011年03月  
[所属学会] 日本人間行動進化学会、日本社会心理学会  
[専門分野] 社会心理学、進化心理学、文化心理学  
[研究テーマ] 協力、信頼、進化、社会的ジレンマ、制度、権力、表情

# BOBOG INTERVIEW

先輩からのメッセージ

不器用で大志もない若者でしたが、  
与えられた課題から逃げ出すことなく  
一歩ずつ歩んできました。  
あきらめず正面突破すること、  
道は必ずひらけるものです。

キュービー株式会社 代表取締役 社長執行役員 長南 収(ちょうなん おさむ)

山形県出身。1980年3月 鹿児島大学水産学部卒業。同年4月キュービー株式会社入社、仙川工場勤務。仙台支店長、大阪支店長、東京支店長、執行役員等を経て2017年2月 現職就任。2018年10月よりカスタマーマーケティング室担当兼務。



# マ

ヨネーズを日本で初めて世に出したキュー

ピー株式会社は2019年、創業100周年を迎えた。食文化を牽引するナショナルブランドのトップに立つのが、本学水産学部の卒業生である長南収さんだ。マヨネーズやドレッシングなどの「調理・調味料事業」をはじめ、「サラダ・惣菜事業」、「タマゴ事業」、「フルーツ ソリユーション事業」、「フラインケミカル事業」、「物流事業」の6事業、およそ1万5千人の社員を統率するリーダーである。「社長になろうとも、なれるとも思っていなかったし、責任の重さを考えると夜も眠れないことも。ですが(社長職へのオファーを)断る明確な理由もなく引き受けました」。その謙虚な笑顔は、まさに「実るほど頭を垂れる稲穂」を体現している。

長南さんがキューピーに入社したのは大学4年の夏、恩師の勧めで実習(インターンシップ)に参加したことがきっかけ。食品製造の面白さと

もに「楽業僭悦(らくぎょうかいえつ)」を旨とする誠実で温かみのある社風に魅力を感じた。入社後、希望の工場勤務でマヨネーズの製造等に

従事したが、6年後、営業職へ異動になった。「東北出身ということもあって人前で話すのは苦手」だったそうだが、長南さんに「逃げる」という選択肢はなかった。朝早くから夜遅くまで地道に仕事をこなす姿が徐々に周囲に認められ、営業職のスキルを積み、各地の支店長を歴任した。

「学生時代の部活の特訓に比べたら、どんなに辛いことでも乗り越えられると今でも思います」。大学入学と同時に、学部の先輩に勧誘されて入ったカッター部は、当時、学内で1、2を競う厳しさで恐れられていたことを知ったのは入部後のことだった。「慣れない頃はいつも尻や掌の皮が剥け、血だらけで艇を漕いでいました。インターバルには腹筋や腕立て伏せ100回5セットなど、思い出したくないほどの練習量でした」。同期

27人は次々に辞めていったが、長南さんは「先輩が怖くて辞めることができなかった」。つ

いにはキャプテンになり、後輩を指導する立場に就いた。「大きな志もなく、小心者で不器用だから逃げることでできなかつた。でも、苦しい道でも正面突破で進んでいけば必ず道は開けるし、だからこそ味える達成感があることを、身をもって知りました」

京セラ名誉会長の稲盛和夫氏を敬愛するという長南さん。「成功する人は、与えられた縁、人間関係、仕事、環境の中に価値を見出していく力が強い人」と、職業観を語る。「人生観、価値観と一致する職業に就くことができたら幸せなことだし、結局、誰かが喜んでくださるという気持ちを抱いた時、自分の持てる力以上のものも発揮できる。そんな道に出あうためにも、自由にチャレンジできる学生時代に、学びたい事に積極的に挑戦してほしいと思います」。後輩へのエールを送って下さった。

※楽業僭悦(らくぎょうかいえつ)：キューピー株式会社の社是。志を同じくする人が、仕事を楽しみ、困難や苦しみを分かち合いながら喜びをともにする、という考え方。



1「良い商品は良い原料からしか生まれぬ」というこだわりと正直、誠実な企業姿勢は創業時からキューピー株式会社の身上。アジア圏など海外市場での人気も上昇中 2本社ビル(渋谷区)。仕切りのないオープンフロアでは部署を超えた会話も活発 3年間100日間の合宿をしながら錦江湾で漕ぎ続けた 4西日本新人戦、三校戦(長崎大学、水産大学校、鹿児島大学)、そして全国大会に向け2年半にわたって厳しい特訓に励んだ(右が長南さん) 5新入生の海洋研修(後列左から2番目)



Scholar Interview

# 研究室から

## ★片野田 洋 教授

理工学研究科 機械工学専攻  
鹿児島ハイブリッドロケット研究会(Team KROX)代表



### 射場を有する鹿児島に宇宙開発の灯を燃やし続けようー 鹿児島産ハイブリッドロケット開発への道のり

**鹿** 児島県内の研究者や学生、企業会員などで構成する「鹿児島ハイブリッドロケット研究会(Team KROX)・鹿児島大学地域コトづくりセンター所管」は2019年9月、初の小型ロケット打ち上げ実験を実施した。目標高度には達しなかったが、実験結果を踏まえてさらなる研究・開発を進めており、今年中に2号機の打ち上げ実験を予定している。KROXを率いて研究・開発に情熱を注ぐ本学の片野田洋先生に「鹿児島ロケット」について伺った。

#### ★注目を集める小型ロケット

低コストで製作・打ち上げが実現できる小型ロケット・小型人工衛星ビジネスは、現在、世界的に注目されている。国内では2018年、JAXAが小型ロケットによる小型人工衛星の軌道投入を実現させ、2019年には民間企業による小型ロケットの打ち上げが成功した。「小型ロケット、小型人工衛星のビジネスはさらに



「とが最大の課題」  
服するこ

盛んになることが予想されま  
す。日本で唯一2カ所の射場  
を有する鹿児島は他県に比べ  
て有利な環境。大学が中心  
となった宇宙開発プロジェクト  
が何か欲しいという思いが  
ずつとありました」。ロケット  
開発に携わる思いを片野田  
先生は語る。

火薬を使わないハイブリッド  
ロケットは、固体ロケットや液  
体ロケットと比べ、爆発の危険  
性が極めて低いところが最大  
の特徴。地上又は海上への落  
下物も環境へのダメージが軽微  
という利点もある。「爆発しな  
いから学内でも研究が可能と  
判断しました。ただ、安全性  
が高いということは燃えにくい  
ということ。推力の弱さを克

とが片野田先生。将来的な目標  
は、高度100km以上の軌  
道に小型人工衛星を投入で  
きるロケットの製作と打ち上  
げた。

★推進力は、宇宙への情熱

片野田先生が宇宙関連の技  
術開発に着手したのは15年前  
のこと。当時、本学に在籍し  
た研究者の発案を機に、研究  
者や技術者、学生が集結し、  
「鹿児島人工衛星開発部会」  
が誕生。鹿児島産の超小型人  
工衛星KSAAT開発がスター  
トした。子どもの頃から宇宙へ  
の夢を抱いていた片野田先生  
は迷わずプロジェクトに参加。  
おもに熱設計などを分担し、  
KSAAT研究・開発の中核  
を担った。部会は2006

年から  
およそ10年  
の間に2つの人

工 衛 星 を 製 作

(2009年「特定非常  
利活動法人鹿児島人工衛星  
開発協議会」へ改組)。H-II  
ロケットに相乗りさせて宇宙へ  
送り出した。だが、3号機開  
発に着手した時点でプロジェク  
トリーダーの転出という事態  
を迎える。「人工衛星は私の  
専門外。後継者も見つからず、  
開発の継続を断念せざるを得  
ませんでした」。片野田先生は、  
KSAATを通じて培われた宇  
宙開発の技術が途絶え、集まっ  
た人材が散り散りになること  
を危惧。人工衛星に代わる研  
究テーマを模索し続け、見つけ  
たのがハイブリッドロケットだっ  
た。1年間の基礎研究を経て、  
2017年「鹿児島ハイブリッ  
ドロケット研究会(Team  
KROX)」を創設。人工衛  
星開発に携わったメンバーも、  
日本で唯一ロケット基地のある  
鹿児島から宇宙開発の灯を消  
してはならない、という熱い気  
持ちは抱いて集まり、新たな

活動をスタートした。

★宇宙県・鹿児島島の矜持

技術的な研究だけにとどま  
らず、実験に関する各種申請  
や手続き、広報活動など、ロ  
ケット開発にはさまざまなタス  
クが付随する。とりわけ資金  
調達は、研究の存続を左右す  
る重要な柱だ。KROXでは  
奨学寄附金※を常時募集し、  
2018年にはクラウドファン  
ディング立ち上げにチャレンジす  
るなど、活動費の捻出におい  
ても奮闘している。

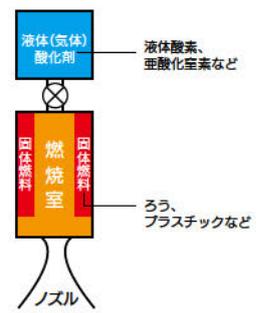
「機体設計や製作、打ち上  
げによる地域・産業振興、さ  
らに子供たちへの理科教育振  
興など、鹿児島ロケットの実  
現による効果は計り知れませ  
ん。資金や環境に恵まれてい  
るわけではありませんが、志  
を一つにする地元人間が集  
まって、ものづくりとしての  
宇宙開発を継続するところに  
意義がある。本当の意味で『宇  
宙に近い鹿児島』を標榜でき  
るのではないかと思います」。  
穏やかながら凛とした面持ち  
で片野田先生は語る。

※大学の会計部門が管理し、教員の研究活動に充てる寄附金。  
2000円以上の寄付は税制上の優遇措置の対象となる。  
<http://www.mech.kagoshima-u.ac.jp/~katanoda/hybridrocket.html>

Profile

片野田 洋(かたのだ・ひろし)

九州大学大学院 博士課程2000年3月修了、英国Cranfield University, College of Aeronautics 客員研究員、北九州市立大学国際環境工学部助教授、鹿児島大学大学院理工学研究科機械工学専攻准教授 等を経て2015年1月より現職。  
■所属学会: 日本機械学会/日本溶射学会/日本航空宇宙学会/鹿児島人工衛星開発協議会  
■専門分野: 圧縮性流体力学 ■研究テーマ: ○超音速流れ ○超音速ノズル ○噴流 ○溶射 ○数値シミュレーション ○ハイブリッドロケット開発



ハイブリッドロケットの概念図

伝統芸能・民俗音楽の調査と  
学校教育へのアウトリーチ研究

教育学部

今由佳里 准教授

1. appeal point  
いま残しておかなければ永遠に失われてしまう伝統音楽・芸能について現地でフィールドワークを通じ、その土地に残されている伝統行事に伴う音楽の採譜・記録を行います。また、芸能の意義を民俗学的視点から調査するお手伝いも行っています。

2. appeal point  
小・中・高等学校音楽科授業における日本音楽の指導方法や教材を開発およびアウトリーチ導入の研究を行っています。



研究の背景および目的

【グローバル化の進む現代において求められる、伝統文化への理解】

雅楽は、一千年以上前の形が現存する世界最古のオーケストラと言われています。唐の制度や文物を日本へ導入した遣唐使が、楽譜や楽器、調律器も持ち帰ったことはあまり知られていないかもしれません。平安時代初めには多くの楽人が遣唐使として唐へ渡り、楽や舞、音楽理論を会得して持ち帰り、現在私たちが耳にする日本の音楽を形成しました。かつて雅楽は、一般の人々が教習を受けることはできず、家のみで代々世襲してきました。しかし、このような制限も明治時代にはなくなり、現在では伝統音楽教育重視の背景から、学校教育の中でも積極的に学ばれています。グローバル化の進む現代において、他国と交流し、互いの文化を理解する上でも、まずは自国や地域の伝統文化を知ることが求められているのではないのでしょうか。

取組の特徴

【古譜解読による楽と舞の再現、教育現場における日本音楽の普及を目指して】

日本音楽を学ぶ意義や内容、方法について、教育現場の指導者と共同で研究を進めています。また、和楽器演奏の実技を含めたアウトリーチについても提案を行っています。さらに、日本近代化の流れの中で廃止され、あるいは衰退していった各地の伝統芸能や民俗音楽について文献や採譜による調査・研究を積極的に進めています。三重県玉城町との連携によって、古くより伊勢神宮に奉納されていた神楽「鳥名子舞」を再興し、2014年春に発表しました。現在、鹿児島島の民俗芸能である「田の神舞」についての調査、研究も進めています。



農学部所蔵

## 取り組み事例



### 学校教育との連携

新しい学習指導要領の中で、和楽器を含むわが国や郷土の音楽についての教育が謳われていることを踏まえ、初等教育コースの全学生を対象として、日本の伝統楽曲や和楽器の演奏基礎等を教えています。また、現職の小学校教員と共同で、日本音楽の指導メソッドや教材を研究・開発しています。箏(こと)や三味線などの楽曲を「変な音楽」という子どもが少なからず見受けられる今日、伝統音楽に親しんでもらう機会を意図的につくることは大切だと思います。



### 雅楽、伝統文化に関する共同研究

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターを拠点とする学術グループに所属し、雅楽および関連芸能について古譜解読による解釈の可能性と再現演奏を追求する共同研究に従事。市民を対象とした雅楽のワークショップも開催しています。また国際日本文化研究センターでは「怪異・妖怪画像データベース」の制作に携わり、芸能や楽器の分野を中心に担当。年代を経て妖怪になった箏や琵琶などの付喪神の姿から、かつて楽器が庶民の暮らしに身近な存在であったことが窺えます。



### 伝統芸能・民俗音楽の調査研究、再興への支援

およそ1200年にわたって伊勢神宮の内宮、外宮に奉納されてきたにもかかわらず明治6年に廃止された神楽「鳥名子舞」に関する調査・研究を三重県玉城町の方々とともに進めています。断片的に残されている文献から歌詞や音楽、舞振りを研究して2014年春、初披露しました。この発表を機に、かつて舞を伝授されたという高齢の方や、代々継承される古文書の中に鳥名子舞行事次第の存在を知る鳥名子組子孫の方など、新たな情報が集まりつつあります。

ところで私の出身は野籬、そう私は鳥名子組の子孫にあたるのです。幼い頃から祖父から鳥名子組の話や、20代の頃には「鳥名子日待」にも参加しました。しかし、これも十数年前に一旦休止し、事実上途絶えています。鳥名子舞の復活に向けた取り組みは、地域住民から地元の文化を見直したいとの声が上がったことで実現しました。町としても、舞を継承し、伝えていくことが歴史文化の発掘に繋がると、再興を積極的に進めています。教育委員会では、貴学の今准教授をはじめ、各種専門家の協力を得ながら唄や舞を再現、また町民から舞手、演奏者を募るなど、地域の伝統文化継承のための取り組みを進め、かつての鳥名子組のように伊勢神宮で演舞できるように頑張っています。



玉城町には田丸城跡をはじめとする歴史文化遺産が数多く残されていますが、時代の流れにより途絶えたものもあります。そのついでが平安時代初期から伊勢神宮の三節祭と遷宮の折に奉納された「鳥名子舞」です。この舞は、玉城町外城田地区の村々(山神・積良・矢野・野籬・蚊野・東原)にあつた鳥名子組の童子によって代々継承されてきました。

### 連携自治体メッセージ

鳥名子舞の再興に向けて  
三重県玉城町教育委員会生涯教育課長 平生公一(ひらおこういち)

### Profile

2006年3月 兵庫教育大学大学院連合学校教育学専攻博士課程 学校教育実  
践学専攻芸術系教育連合講座 単位取得退学  
2006年4月 皇學館大学文学部教育学科 専任講師  
2008年3月 博士(学校教育学)取得(兵庫教育大学)  
2009年4月 鹿児島大学教育学部 講師(2010年10月より准教授)



スイスへ留学していた頃、私はカトリック系女子寮に住んでいました。礼拝堂を持つ寮に暮らしたおかげで、キリスト教の二連の行事を日常生活の中で自然に体験することができ、欧州の文化を理解するひとつの契機となりました。同年代が暮らすここでは、度々自国の宗教や文化、政治の話題になります。渡欧して間もないノエルの頃、夕食後にイタリアの友人から日本の宗教と音楽の関係について尋ねられました。しかし、私はうまく答えることはできませんでした。その時、自国の文化をもっとよく知っていたら、それを基軸に外国の文化を理解する手助けになるのではないかとふと頭に浮かびました。そのような経緯から帰国後、日本文化に積極的に向き合うようになりました。初めて勤務した大学が伊勢神宮の学問所という歴史があつたことも幸いし、今の研究に繋がっています。自国の文化を知ることは、グローバルな視点を持つひとつの糸口になるのではないかと考えています。

### 鹿大メッセージ

海外に暮らして気づいた自国の文化を知ることの大切さ

教育学部准教授 今由佳里(いんゆかり)



## ・鹿児島大学稲盛記念館「竣工式」が執り行われました

令和元年11月16日、鹿児島大学稲盛記念館において、施工主の三井住友建設株式会社により、竣工式が執り行われました。

記念館は、本学工学部卒業生であり、鹿児島大学名誉博士（京セラ株式会社名誉会長）である稲盛和夫氏から、本学の教育研究の充実・発展の場としてご寄附いただくこととなり、平成30年9月7日に寄附受納式、平成30年10月に着工開始、令和元年10月7日に引渡式を経て、この度の竣工式を迎えたものです。



竣工式では、建築主の稲盛和夫氏の代理として稲盛財団理事長の金澤しのぶ氏をはじめ関係者らが一堂に会し、神事が厳かに執り行われました。

記念館は、鉄筋コンクリート造の地上3階建。1階はフードコート、IT PLAZA(ワークスペース)、2階はレストラン、3階は稲盛名誉博士の歩みや哲学等に触れることができる「稲盛ライブラリー」や稲盛財団とその国際的顕著活動『京都賞』に関するパネル、ディスプレイのある「京都賞ライブラリー」、会議室・ファカルティラウンジとなっています。

## ・鹿児島大学創立70周年記念式典・記念シンポジウムを挙行

令和元年12月12日、鹿児島大学稲盛会館において、鹿児島大学創立70周年記念式典・記念シンポジウムを挙行しました。

記念式典では、佐野輝 鹿児島大学長の式辞に続き、来賓を代表して萩生田光一 文部科学大臣（代読：淵上孝 文部科学省高等教育局国立大学法人支援課長）、三反園訓 鹿児島県知事、富永茂人 鹿児島大学同窓会連合会会長からご挨拶をいただき、約200名の参加者と共に創立70周年という節目を盛大に祝いました。



本式典終了後は、記念シンポジウムが開催され、記念講演会として、学校法人千葉学園理事である宮崎緑氏をお迎えし、「国際人育成の視座」と題して、ご講演いただきました。また、宮崎氏には、引き続きパネルディスカッションにおいてもパネリストとしてご参加いただき、5名のパネリストと共に「豊かな自然と文化を有する奄美の未来を考える」とのテーマについて語り合い、大いに盛り上がりました。

式典後は、本学工学部の卒業生であり、鹿児島大学名誉博士である稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長）から、本学の教育・研究の充実・発展の場としてご寄附いただきました稲盛記念館のオープニングセレモニーを行いました。セレモニーでは、金澤しのぶ 稲盛財団理事長、岩崎芳太郎 鹿児島商工会議所会頭、岩切剛志 鹿児島県知事、坪内博仁 鹿児島市立病院院長、盛和塾鹿児島顧問（当時）の上原昌徳 株式会社山路社長、佐野学長ら6名によるテープカットの後、参加者約180名は稲盛記念館内のレストランにおいて記念祝賀会に参加し、本学創立70周年記念と稲盛記念館オープンを祝いました。

## ・アジア初となる欧州国際水準の獣医師育成教育機関として認定

鹿児島大学共同獣医学部及び山口大学共同獣医学部は、獣医学教育の欧州国際認証となる欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証を令和元年12月11日（現地時間）取得し、同じく認証取得した北海道大学獣医学部及び帯広畜産大学共同獣医学課程の4大学による合同記者会見を同年12月13日、文部科学省にて行いました。

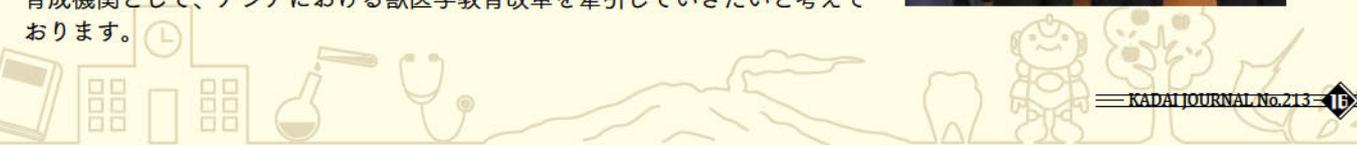
本認証の取得は、国立大学改革強化推進事業「国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」（平成24年度～平成29年度）の支援の下、多くの自治体・民間企業ならびに同窓会等の協力を得て達成された成果の一つとなります。

本認証の取得は、日本のみならずアジアの獣医学高等教育機関においても初めてのことであり、これによって本学共同獣医学部は国際水準の教育を行っているとお墨付きを得たこととなり、近年のグローバル化の流れの中で世界に通用する人材の育成が更に期待されるものとなります。

これまで、本学共同獣医学部は、獣医学のグローバル人材の育成を目的として、学部運営組織、教育カリキュラム、施設設備、教育資源、及びそれらの品質評価システムについて長年にわたって抜本的な改革に取り組んでまいりました。その外部評価の指標として EAEVE による獣医学教育の国際認証の取得を目指し、努力の成果が認められ、平成29年10月の事前審査及び令和元年6月の本審査を経て、この度の取得に至りました。



今回の認証取得は、本学共同獣医学部における獣医師育成の水準が、欧州に比肩するレベルに達しているとアジアで初めて認定されたものです。昨今ボーダーレス化の進む国際社会において、疾病の制御や食の安全に関わる獣医師の育成機関として、アジアにおける獣医学教育改革を牽引していきたいと考えております。







# 進め! 鹿大生

第47回鹿児島陶芸展(創作部門)において  
南日本新聞社賞を受賞

藤田 菜々恵 さん(教育学部美術専修4年)

Nanae Fujita

「教員になるか、企業を目指すか、出身地の兵庫へ帰るか、鹿児島に残るか。卒業後の進路に悩んでいた時、周囲や社会の常識に踊らされているような気がして」。藤田菜々恵さんが受賞作「神楽」で表現したのは、外の見えない力に押されて揺れる心の内側。制作を通して自分と向き合い、大学院への進学を決意しました。

藤田さんの作品のモチーフは、自然。「具体的に何、と説明はできないのですが、無意識のうちに、どこかで見た自然物を表現していました」。幼い頃から自然への憧れが強く、大学進学を機に鹿児島へ来てからは佐多岬や枕崎、種子島、屋久島など至る所へ出かけました。「神戸の住宅地で育ったので、鹿児島の景色はいくら見ても見飽きない」

鹿児島のもう一つの魅力は、ものづくりに携わる人の距離が近いこと。アルバイト先の陶芸工房に集まる銀細工や家具、和紙など、さまざまなジャンルの造形作家との出会いは大きな刺激に。将来は、手作りのものをもっと日常に取り入れることを広めたいという思いを抱いています。「百均のお皿でご飯を食べるより、作家さんの作った陶器でいただく方が美味しいですよ。伝えるためには、まず自分が知る必要があるのです、ものづくりや日本文化について勉強を深めたいと思っています」



座右の銘

「七転び  
九起き」

今まで何度も失敗をしてきましたが、私はそれらを含め全て成功だったと思っています。七回転んだとしても、八回、九回とたくさん起き上がっていくぞ、という前向きな気持ち私の背中をいつも押してくれているように思います。



第47回鹿児島陶芸展で南日本新聞社賞を受賞した「神楽」



「うず」  
生物や自然物を作り出す細胞がモチーフ。地面に張り付き、静かに、そして生々しく地面を這う



「呼応」  
静かな水面に水が落ち、水と水が呼応する様をイメージ



KADAI  
PLUS

鹿大 プラス

鹿大プラスでは、鹿児島大学インフォメーションセンターで販売している鹿児島大学の研究・教育活動の成果として完成した商品を紹介します。



## サツマ黒味噌

サツマ黒味噌 容量:90g/パック 一般販売価格:650円(8%税込) 鹿児島大学インフォメーションセンター特別価格:540円(8%税込)

黒糖、黒酢、黒米などと並ぶ、鹿児島の新たな「黒い食材」として、本学の研究によって生み出されたのが『サツマ黒味噌（特許出願中）』です。原料として鹿児島県農業開発総合センターで育種された「さつま黒もち（黒米）」および農研機構九州沖縄農業研究センターで育種された「クロダマル（黒大豆）」を用い

ることで、原料由来の黒い色素による黒色の味噌が誕生しました。黒米や黒大豆に含まれるポリフェノールは、抗酸化作用を持つ機能性分子であることが解明されています。本学で開発した製造方法を応用し、吉村醸造株式会社（いちき串木野市）の協力により製造・販売を継続しています。



お求め・お問い合わせ先 **インフォメーションセンター（鹿児島大学正門横）**

☎099-285-3864 開館時間:月曜日～金曜日(休日・祝祭日を除く) 9:30～16:30(昼休み13:00～14:00)

### 今号の表紙「農学部附属入来牧場とVERA入来観測局」

鹿児島市から北西へ約30km、八重山に設置された家畜専門の教育・研究施設です。1968年、種子島から現地に移設されました。147haの敷地では現在約200頭の黒毛和種を飼養し、繁殖から肥育までの生育段階の教育・研究を行っています。また、南西諸島の貴重な遺伝資源である口之島野生化牛、トカラウマも飼養し、保護、増殖などの取り組みを行っています。

牧場の一面には国立天文台VERA入来観測局が設置され、動物たちが草を食む傍で直径20mの電波望遠鏡が宇宙を見上げています。別棟には理学部の1m赤外線望遠鏡も設置され、電波観測と光学観測をあわせた特色ある研究を進めています。

